



小松菜 (アブラナ科アブラナ属)

「漬け菜」とは一般には漬物に使用する菜っ葉ですが、農学では非結球のアブラナ属の葉菜のことをいいます。野沢菜やチンゲンサイなどがあり、結球するハクサイやキャベツは含みません。

江戸幕府第8代将軍徳川吉宗が命名したといわれる小松菜は、関東地方で栽培されてきたツケナの一つです。1970年代に世界初の小松菜の交配種「みすぎ」が育成されると、新しい産地が次々にでき、全国の野菜売り場に並ぶようになりました。

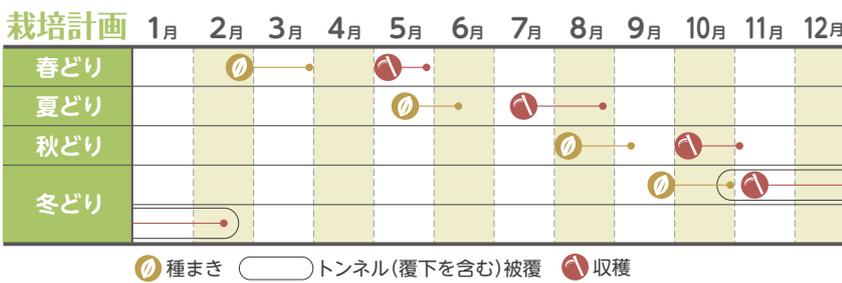
交配種は雑種強勢と両親のいいところ取りによって、生育が旺盛で収量が上がります、病気に強く味も良くなります。現在のツケナの大半は交配種です。日本の野菜の育種は世界のトップクラスです。

交配種はそろいが良いので、規格通りに出荷する生産者にとっても、同じ価格で販売する流通業者にとっても、大きなメリットがあります。一斉に収穫はしない家庭菜園では、収穫期に幅がある「固定種」の方が良いかもしれません。

小松菜は暑さや寒さに強く、ほぼ周年栽培ができます。深さ10cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、5cm間隔に筋まきします。小松菜は種が細かく多くまきがちですが、発芽が良いので厚まきすると間引きに手がかかりません。薄く覆土をして軽く鎮圧します。発芽まで乾燥させないようにします。

発芽後、順次間引きして、本葉4〜5枚のときに株間を約5cmにします。水やりは朝方にし、夕方に土の表面が乾く程度にします。追肥は1週間に1度、1000倍の液肥を施します。本葉4〜5枚になった物から収穫し、本葉7〜8枚までに終えるようにします。

水菜、広島菜、芭蕉菜など、小松菜以外のツケナも栽培方法は似ています。子どものお雑煮やみそ汁に入っていた菜っ葉を思い出して、種まきするのも良いですよ。



JAグリーン津店
津店が教える！
小松菜栽培の
ポイント！



JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一

真冬をのぞいてほとんど1年中育てられ、30〜40日で収穫できるので、思い立ったらさっそく栽培を始めてみましょう。

《害虫対策》

秋に種まきすると、他の季節よりも発生は少なくなるといわれていますが、それでもアブラムシやコナガの被害にあうことがあります。被害を避けるには、種まき後すぐに防虫ネットを張って虫の飛来を防ぐことをオススメします。

《間引き》

種まきから5〜7日ほどたった頃が1回目の間引きのタイミングで、収穫まで適宜間引きして間隔を広げていくことが大切です。葉の形がいびつなものや小さいものなどを抜き取り、元気な株を残しながら育てましょう。

《収穫のタイミング》

葉の高さが20〜25cmになったら収穫時期です。大きく育てすぎると、葉がかたくなり、アクが出てくるため注意！遅くても、高さ30cmくらいまでには収穫しましょう。



タマネギ (ユリ科ネギ属)

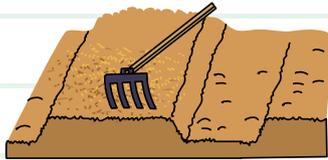
タマネギの生育は、15〜20度の冷涼な気候が適し、10度以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がると、日が長くなると肥大します。

【品種】 早生品種は収穫期が早い反面、貯蔵性に劣り、反対に中晩生品種は収穫期が遅いが貯蔵性に優れます。長い間収穫を楽しむには早生と中生を作ることをお勧めします。

【畑の準備】 植え付けの2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gを散布してよく耕しておきます。1週間前に化成肥料（N-P-K 115-15-15%）100g、過リン酸石灰（過石）50g、堆肥2kgを全面にまき、深さは20cmくらいに耕します。ベッド植え（4条植え）にする場合は幅90〜100cmの栽培床を作ります（**図1**）。すじ植え（1条植え）では、畝幅60cmとし、幅20cmの溝を掘り、畝1m当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土とよく混ぜておきます（**図2**）。

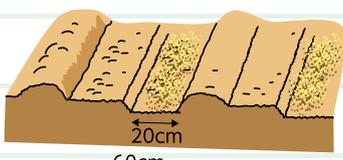
【植え付け】 11月に入ると園芸店で苗の販売が始まります。草

図1 畑の準備(ベッド植え)



1平方m当たり化成肥料100g、過石50g、堆肥2kgを入れ、よく混合してからベッドを作る

図2 畑の準備(すじ植え)



溝1m当たり化成肥料50g、過石30g、堆肥1kgを入れて、土と混合する

丈20〜25cm、太さ5mm程度の苗を購入し、霜の降りる前までに植え付けると良いでしょう。ベッド

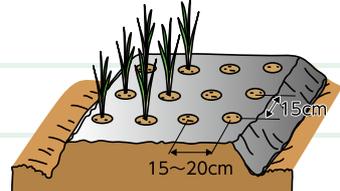
植えでは、黒ポリマルチを張れば雑草が抑えられ、地温を上げて生育が良くなります（マルチ栽培）。穴開きマルチを使う場合は穴の規格に応じて、条間15〜20cm、株間15cmに植えます（**図3**）。1条植えでは、株間10cm程度にします（**図4**）。

【追肥】 1月上中旬と2月中旬〜3月中旬に、1平方m当たり化成肥料20gを株元にまき、土寄せします。マルチ栽培では、株元（マルチ穴）に化成肥料を施します。

【病害虫の防除】 葉が白くカスリ状となるネギアザミウマ被害には、オルトラン水和剤などで防除します。さび病やべと病には、ジマンダイセン水和剤などで予防します。

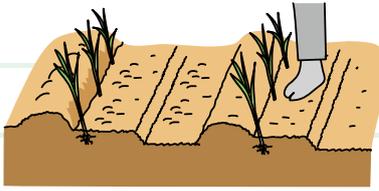
※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

図3 植え付け(ベッド植え)



条間15〜20cm、株間15cmに植え付ける

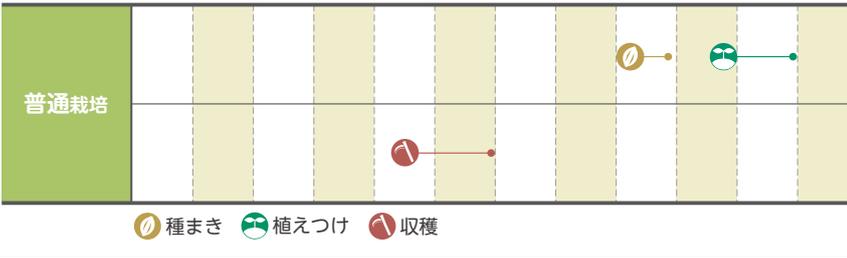
図4 植え付け(すじ植え)



株間10cm、深さは苗の白い部分まで土を掛ける。株元を足で踏んでおく



栽培計画 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



農家の皆様へ 「ツマジロクサヨトウ」にご注意下さい

- ・ 飼料用トウモロコシ等を食害し、甚大な被害を招く恐れがあるため、圃場で疑わしき害虫を発見した場合、三重県 農林水産部 農産園芸課 (TEL:059-224-2543) または三重県病害虫防除所 (TEL:0598-42-6365) までご連絡いただくとともに、農薬散布による防除をお願いします。

網目模様 淡色部は逆Y字状



○ツマジロクサヨトウの特徴や防除対策、使用できる農薬等の情報はこちらで確認できます。
(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

